

大島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	海洋交通システム学特別演習	
科目基礎情報							
科目番号	0040			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	海洋交通システム学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	前期:4		
教科書/教材							
担当教員	千葉 元,清水 聖治,朴 鍾徳,久保田 崇,木村 安宏,渡邊 武,前畑 航平,森脇 千春,村田 光明,松村 哲太						
到達目標							
1. 商船学における各分野の演習テーマに取り組み, 問題解決に必要な基礎知識を修得することができる。 2. 複合的視点による問題解決能力と対応能力を身につけることができる。 3. 演習で得られた結果をレポートとしてまとめることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	幅広い海事関連分野の問題解決に応用できる。		商船学に関する基礎知識を修得し, 実験, 問題分析, 工学的な問題解決に応用できる。		実験の内容が理解できていない。		
評価項目2	幅広い海事関連分野の問題解決に応用できる。		複合的視点による問題解決能力と対応能力を身につけることができる。		レポートの考察が不十分である。		
評価項目3	幅広い海事関連分野の問題解決に応用できる。		演習で得られた結果をレポートとしてまとめることができる。		レポートが未提出である。		
学科の到達目標項目との関係							
本校 (1)-a 専攻科 (5)-a							
教育方法等							
概要	商船学における各分野の演習テーマを通して, その分野の理解を深める。 さらに演習の結果を検討することで, 特別研究を発展させるための意識や能力を養うことを目標としている。						
授業の進め方・方法	航海学および機関学分野の各教員の指導に従い, 各分野に関するテーマについて演習を行うことで, その分野の理解を深める。						
注意点	それぞれの実験については, 各担当教員の注意事項に従うこと。 実験は安全第一, 怪我のないことを第一優先とし, 大丈夫だろうとの思い込みで実験を行わないこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	操船術①		履修済み実技を復習する。		
		2週	操船術②		経験の浅い低学年への実技手段を立案する。		
		3週	操船術③		低学年に実技実習をレクチャーする。		
		4週	小型船整備計画①		小型船の操縦性能を測定する。 小型船の操縦性能劣化について考察する。		
		5週	小型船整備計画②		小型船の維持管理に関する計画を複数の要因に別けて立案する。		
		6週	小型船整備計画③		小型船の維持管理に関する計画中で整備に関する計画を実行する。		
		7週	操船術④		他の船舶との見合い関係を理解し、避航操船にあたる。		
		8週	操船術⑤		他の船舶との見合い関係を整理し、適切な避航操船を実施する。		
	2ndQ	9週	操船術⑥		他の船舶との見合い関係の早期解消を行うための手段を取得する。		
		10週	海洋環境計測①		海潮流の観測原理を理解し、観測機器のセットアップを行う。		
		11週	海洋環境計測②		観測機器を実海面にセットし観測を開始する。インターネットより観測値の参照情報を得る。		
		12週	海洋環境計測③		観測機器からのデータ取得を行い、結果分析を実施する。		
		13週	レポート作成				
		14週	レポート作成				
		15週	レポート作成				
		16週	レポート作成				
評価割合							
	試験	発表	レポート（課題理解力）	レポート（課題解決力）	実技・成果物	その他	合計
総合評価割合	0	0	50	50	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	25	25	0	0	50
分野横断的能力	0	0	25	25	0	0	50